

■ 専門科目

アート・クリエイション

比較芸術論

2023年度開講・選択・2単位

Comparative Study on Arts and Design

担当教員 未定

授業の目的と到達目標（学修成果）

さまざまな芸術の相違と共通性、狭義の芸術と広義の芸術との関係等について考察し、各種芸術の適切な比較、独自の比較を行い、芸術全体の知識を広げ、各自が専門とする芸術制作と芸術論を高めることが目標である。

授業の概要（内容）

比較芸術論では、絵画、彫刻、建築、各種工芸、プロダクト・インテリア・ファッション等を含む各種のデザイン、マンガやアニメ、映像、音楽、舞踊からスポーツの一部まで、広義の芸術の比較講義を行う。

芸術共創論

後期・選択・2単位

Co-creation for Arts

担当教員 谷口文保、曾和具之、山本忠宏

対面・遠隔の別

対面

授業の目的と到達目標（学修成果）

共創の芸術的価値について俯瞰的に考え、その可能性を理解する。受講生各自が自身の研究を俯瞰的に再考し、その意義を明確化する。

授業の概要（内容）

本授業では、未来を拓くアーティストやデザイナーに必要な俯瞰的視点と柔軟な思考力を身につけるために、近現代の芸術の相対化を試みる。まずは、共創の観点から近現代の芸術について再考する。次に、美術館や町中で芸術の実態調査を目的にフィールドワークを行う。こうした学習と調査に基づいて、芸術の多様性と可能性についてディスカッションする。最後に、各自が自分の研究の価値や意義を再確認し、その内容をプレゼンテーションする。

授業計画

- 1：イントロダクション「芸術の創造について」（谷口）
- 2：アートにおける共創（谷口）
- 3：デザインにおける共創（曾和）
- 4：メディア表現における共創（山本）
- 5：芸術の相対化－考現学・トマソン・限界芸術（谷口）
- 6：フィールドワーク 大阪市立東洋陶磁美術館（集中、谷口）
- 7：フィールドワーク 千日前道具屋筋商店街（集中、谷口）
- 8：フィールドワーク 国立国際美術館（集中、谷口）
- 9：フィールドワーク 日本橋電気街（集中、谷口）
- 10：ディスカッション「芸術の多様性について」（谷口）
- 11：各自の研究の意義について（谷口）
- 12：プレゼンテーション（準備）（谷口）
- 13：プレゼンテーション（練習）（谷口）
- 14：プレゼンテーション（講評）（全員）
- 15：まとめ（谷口）

実務経験のある教員

担当教員全員が、造形美術、写真、ワークショップ等の実践者なので、その実務経験を活かして指導する。

授業時間外学習

授業の前後に、参考図書を読むと授業内容が深く理解できる。授業後に、地域で実施されているアートプロジェクトや芸術祭を見学したり、地域連携や共同制作による芸術活動に参加したりすると授業内容をより深く理解できる。

評価方法

プレゼンテーション50%、レポート20%、授業態度30%の割合で評価する。プレゼンテーションを発表しなかった場合、またはレポートを提出しなかった場合、または出席が10回に満たない場合はD評価となる。

指導方法

個々のプレゼンテーションに対して講評を行う。

使用テキスト

鶴見俊介「限界芸術論」（筑摩書房、1999）

参考テキスト・URL

赤瀬川源平「超芸術トマソン」（筑摩書房、1987）赤瀬川源平他編「路上観察学入門」（筑摩書房、1993）今和二郎「考現学入門」（筑摩書房、1987）谷口文保「アートプロジェクトの可能性 芸術創造と公共政策の共創」（九州大学出版会、2019）

各自準備物

授業中に指示する。

実習費

フィールドワークのための交通費

環境アートプログラム

前期・選択・2単位

Environmental Arts Program

担当教員 戸矢崎満雄、かわいひろゆき、さくまはな

対面・遠隔の別

基本は対面で、一部を遠隔で行います。

遠隔の場合の主なツール

Teams を使用。

授業の目的と到達目標（学修成果）

環境（時代性と地域性）を基にしたアートとプロジェクトについて体験的に理解し、芸術的アプローチによる環境アートの課題と可能性について理解できる。

授業の概要（内容）

現代アートは「時代や場所」を踏まえた環境を捉えることが重要なので、国際的な芸術祭やアートプロジェクトの事例を中心に考える。本授業では、日本の伝統文化や社会状況などを起点にしたアートのアプローチを体験や見学も含めて学ぶ。

授業計画

- 1：イントロダクションとして「環境とアート」をテーマに講義（戸矢崎）
- 2：「伝統文化と現代美術」をテーマに芸術祭と作品を語る（かわい）
- 3：「日々是アート」をテーマに、日常の中のアートの視点を探る（集中、かわい）
- 4：「日々是アート」をテーマに、作品を制作する（集中、かわい）
- 5：「日々是アート」をテーマの作品発表と講評会（集中、かわい・戸矢崎・さくま）
- 6：「暮しのかたち」をテーマに紙版画を制作する モチーフの選定（集中、さくま）
- 7：「暮しのかたち」をテーマに紙版画を制作する 紙版の制作と印刷（集中、さくま）
- 8：「暮しのかたち」をテーマにした紙版画の作品発表と講評会（集中、さくま）
- 9：「茶の文化」をテーマに、現代美術とインスタレーションを解説する（戸矢崎）
- 10：「盆栽とアート」をテーマに、見立ての文化についての講義（戸矢崎）
- 11：学外授業として近郊のアートギャラリーなどを見学する（集中、戸矢崎）
- 12：学外授業として近郊のアートギャラリーなどを見学する（集中、戸矢崎）
- 13：学外授業として近郊のアートギャラリーなどを見学する（集中、戸矢崎）
- 14：学外授業として近郊のアートギャラリーなどを見学する（集中、戸矢崎）
- 15：アートギャラリーなどの見学レポートを各自発表する（戸矢崎）

実務経験のある教員

担当の3名は、全てアーティストとして、海外を含む芸術祭や個展などでアート作品発表のキャリアがある。

授業時間外学習

テーマに添った課題では一部に授業時間外の制作がある。特に興味を持ったものに対しては、各自に詳しく調べるなどが重要。

評価方法

授業内で書くレポートやワークショップによる制作物を60%、授業への積極的な取り組みを40%で評価する。

指導方法

授業中でのレポート発表とワークショップでの制作発表などでは個々に講評を行う。

使用テキスト

受講者に「与島五島の伝統文化とアートプロジェクト」（2021年）を無料で、他に適時資料を配布する。

参考テキスト・URL

神戸芸術工科大学紀要2013「瀬戸内国際芸術祭 沙弥島アートプロジェクト by 神戸芸術工科大学」報告

各自準備物

事前の授業中に指示するか掲示する。

実習費

見学での交通費は各自負担となる。

現代クラフトプログラム

2023年度開講・選択・2単位

Modern Crafts Program

担当教員 森岡希世子、友定聖雄、田口史樹、徂徠友香子

対面・遠隔の別

対面授業

授業の目的と到達目標（学修成果）

工芸における伝統とは何か、それは現在の工芸にどのように受け継がれ影響を与えているのかを、体験的に理解する。

授業の概要（内容）

工芸の様々な分野において、伝統として伝わる技術や様式を学ぶため、産地のフィールドワークを行う。さらにその伝統を基礎として、現在行われている革新的な技法や新たな挑戦などを、実際に工芸に携わる方々の聞き取りや、調査学習などを行い検証する。そこから今後の工芸の可能性を考える。

授業計画

- 1：オリエンテーション 授業概要・課題説明（森岡）
- 2：工芸における伝統と革新とは（森岡）
- 3：丹波焼 現地調査①（森岡）
- 4：丹波焼 現地調査②（森岡）
- 5：丹波焼の現在（森岡）
- 6：日本現代工芸美術展①（友定）
- 7：日本現代工芸美術展②（友定）
- 8：現代工芸とは（友定）
- 9：大阪造幣局 現地調査①（田口）
- 10：大阪造幣局 現地調査②（田口）
- 11：金属工芸の現在（田口）
- 12：織物工房見学 現地調査①（徂徠）
- 13：織物工房見学 現地調査②（徂徠）
- 14：染色工芸の現在（徂徠）
- 15：課題の総合講評会（森岡）

授業時間外学習

現地調査当日の概要・ポイント等をレポート等にまとめるなど、復習に励むこと。

評価方法

①現地調査への参加 ②陶芸・ガラス・金属・テキスタイルの各演習ごとのレポートの内容を総合的に評価する。

使用テキスト

適宜配布する。

各自準備物

現地調査において、デジカメ、記録紙など

実習費

現地調査に必要な交通費